小雪が舞う中、交流センター駐車場で観閲を行い ました。引き締まった表情で観閲を受ける団員達

飯舘村消防団 出初式 決意を新たに122人が集う

1月6日、交流センター「ふれ愛館」で、飯舘村 消防団の出初式が行われました。式には、消防 団員・女性消防隊・役場消防隊、合わせて122人 が参加。交流センター駐車場で観閲を行い、村内 の安心・安全な暮らしを守るため、本年も引き続き 消防活動に取り組んでいくことを確認しました。ま た、あいさつに立った関係各位は、団員らの貢献 に感謝を述べて激励。優良消防団員の表彰と、 永年勤続賞の授与は、交流センター内のホール に移動して行われました。



トークショーも同時開催。箭内さん(右から2人目)、 菅野村長(左端)や村民が、村の魅力を語りました

風とロックCARAVAN福島 交流センターで再び!

1月19日、交流センター「ふれ愛館」で、県 内59市町村をめぐる音楽ライブ「風とロック CARAVAN福島」が開かれました。ステージに は、ロックバンド「音速ライン」やスネオへアーさん をはじめ、県内ゆかりのアーティストが続々登場。 それぞれのパフォーマンスで会場を盛り上げま した。この催しは昨年1月にも同会場で開催され ましたが、出演予定だったクリエイティブディレク ターの箭内道彦さんが体調を崩して来場できな かったことから、特別に2回目が開催されました。



菅野村長から委嘱状を受ける出口さん(左端)。同日コン サートを開いたさだまさしさんと同じ長崎県出身です

子どもと保護者の心をケア 出口小児科医がまでい大使に

1月20日、「いいたて新春のつどい | のステージ上 で、出口小児科医院(長崎県)院長・出口貴美子さ んに対して、「までい大使」の委嘱が行われました。 出口さんは、震災以降、定期的に村の幼稚園や小 学校を訪れ、子ども達や保護者への心のケアを中心 に支援くださっています。委嘱を受けた出口さんは、 「これからも村の子ども達や保護者に寄り添ってい きます」と話していました。村のPRやアドバイスを行っ ていただく「までい大使」は、出口さんを含め14人とな りました。

「いいたてカレーパン」用の ホウレンソウを収穫したよ

12月19日、村と協定を結んでいる明治大学農 学部の学生らが、髙橋日出夫さん(関根・松塚) のハウスで寒締めホウレンソウの収穫を行いまし た。このホウレンソウは、協定に基づく事業の一つ で「いいたてカレーパン」の開発に活用するため、 髙橋さんに栽培を依頼していたものです。収穫し た約40kgのホウレンソウは、翌日、「までい工房 美彩恋人」(渡邊とみ子代表/前田・八和木)の 協力でペーストに加工。今後はこれを活用してカ レーパンの試作を行っていくということです。



4人の学生と村職員(右から2人目)らが、髙橋さん のハウスで収穫作業を行いました

イイタネちゃんをモチーフに 羊毛フェルトの楽しさを体験

12月26日、交流センター「ふれ愛館」で、「生涯 学習事業 羊毛フェルト教室」が開かれました。羊 毛フェルトとは、羊毛をニードル(針)でつついて繊 維を絡めながら成形する手芸の一種です。講師に 板橋秀美先生を迎え、手順を教わりながら、村公



式キャラクター・イイタネちゃんを作りまし た。製作が始まると、6人の参加者は、 作業に熱中。かわいい作品ができあが ると、それぞれのイイタネちゃんを見せ 合って楽しんでいました。



個性豊かなイイタネちゃんが勢ぞろいしました。 ものづくりに没頭する時間っていいですよね

村を訪れた高校生に伝える 避難経験と農業再生への思い

12月28日、有名進学校である灘高等学校(兵庫 県)、筑波大学附属駒場高等学校(東京都)から、生 徒の皆さんが視察研修のために来村。交流センター 「ふれ愛館」で、髙橋日出夫さん(関根・松塚)の講 演に耳を傾けました。野菜や花の栽培に精通し村で 農業を営んでいた髙橋さんは、避難先でも花き栽培 を継続し、避難指示解除後はいち早く村での再開に 取り組みました。講演を聞いた生徒達は「やり遂げた 執念に感動した」「農業は大変だが頑張ってほしい」 と時間いっぱい髙橋さんに感想を伝えていました。



生徒の皆さんは、髙橋さんの体験と心情に、真剣に 耳を傾けました。写真は対話する髙橋さんと生徒達